

音楽でつながり社会参加を

広島県福山市では現在、11月11日に高齢者の生きがいや社会参加づくりを目的とした音楽交流会の開催に向けて準備が進められている。企画・運営するのは地域の特養ホームや老健施設、デイサービスなど様々な医療・介護従事者だ。昨年の第1回では、音楽の楽しみを通じて心身機能やQOLが高まった人も。実行委員の中崎めぐみさんに紹介してもらおう。

(編集部)

「久しぶりに大きな声 交流会」が開催されました。市内の医療機関や介護事業所で働いている方や一般の市民など、80人も人が集まり、皆で歌を唄ったり、珍しい楽器を奏でたりして楽しいひと時を共有しました。冒頭は、その時の参加者の声です。



中崎さん

音楽交流会は、「病気や障害の有無にかかわらず、あらゆる人々の社会参加の場を創造すること



自前のギターで久しぶりに演奏。後ろでは歌を唄う方やハーモニカで参加される方も

法人の枠を超え 生き甲斐づくり

活動として始めました。私が勤務しているデイサービスは2002年、おそらく日本で初めて音楽活動・音楽療法を専門として開設しました。母体は両親が営んでいる楽器の製造・販売会社で、演奏家である母親がアメリカを訪問した際、高齢者のターミナルケアに音楽療法を取り入れていることを学んだのをきっかけに始めたものです。デイでは音楽活動を通して利用者さんのADLやQOLが改善していく様子を目の当たりにすることが何度もありました。音楽が持つ「楽しもうーやってみてみたい！楽しいーできたー」のパワーをもっと地域の高齢者の生きがいづくりやまちづくり役に立てられないだろうか…という思いがありました。

また、地域での社会活動の場づくりの必要性も感じていました。介護サービスを利用している高齢者は、介護事業所以外に出かける機会がほとんどない人が少なくありません。事業者側も施設内でのサービス提供にとどまっているほうが多いのが現状です。老健施設や特養、病院、グループホームなど法人の枠を超えて取り組んでいることにも意義があります。第1回めは、その場で好きな歌を唄い、楽器を奏でるいわば即興のような形でやってみただけですが、想像以上の手応えがありました。ある男性はわざわざ自宅からギターを持参してくれました。聞けば昔は「憧れのハワイ航路」を弾き始めると大合唱で盛り上がり、最後は「今日の日はさようなら」を手につないで合唱し、「また会いましょうー」で締めくくりました。参加するまでは、慣れない場所と初めての人がばかりに囲まれて不安そうに顔をしていた方が、終わってみると充実感と達成感に満たされたような表情をされていたのが印象的でした。また、デイサービスから職員に誘われて参加した認知症の方は、普段はちょっと前の出来事を覚えていないのに、音楽交流会のことはその後2週間ほど「楽しかった」と余韻にひたっていたというエピソードもありました。



合唱した歌について、インタビュー。「若い頃によく唄っていたから、懐かしい。当時を思い出す」と話していた

11月に開催する第2回音楽交流会はさらにバージョンアップを考えて準備を進めています。誰でも参加可能とし、グループを組んで課題曲と自由発表演目を決め、本番に向けて半年間練習をします。新しいことに挑戦していくことの楽しさを感じてもらいたいと願っています。

(デイサービスセンター ムジカアートスクエア 中崎めぐみ)